



持久走大会と学校運営協議会

—— 12月8日

持久走大会の開会式では、3日に行われた玉名市公民館支館対抗駅伝大会への参加児童男女4人をまず紹介しました。

そして4年生以上が道徳の時間で学んでいる金栗四三さんの「体力、気力、努力」の基となっている(6km)駆け足登校について話しました。

この日は合わせて第2回学校運営協議会を行いました。この会では前期の教育活動と(前期)学校評価を報告し、「児童の健康課題(睡眠、視力、体力・運動)」について熟議を行っていただきました。この熟議は2月22日に予定している「伊倉っ子シンポジウム」につながるものです。

冬休み前集会 12月22日リモート

まず12月の生活目標で振り返りました。「友だちとなかよくしよう。おたがいが気持ちのよくなるあいさつをしよう。ふわふわことばをたくさん使おう。ともだちのいいところをたくさん見つけよう。」

その上で、友だちとなかよくするとこんなこともできると、東京2020パラリンピック、ブラインド・マラソン金メダリストの道下美里選手を紹介しました。



道下選手は小学4年生のときに目の病気に罹り、中学2年生の時には右目が失明。25歳で左目も光を感じる程度になりました。そのような中、目標を失い、一時は部屋にこもっていることもありました。

しかし30歳をすぎてマラソンに挑戦したのです。努力すれば伸びる記録に喜びを感じ、6年で日本を代表するトップランナーになりました。信頼する“伴走者”とともに10年以上走り続けています。

道下選手は伴走者の言葉を頼りに走ります。その声と一本のロープ(絆)を握り伴走者と前に進みます。伴走者とともに挑戦し続ける道下選手は2015年、38歳で“世界最高”(参考記録)を樹立。2019年のパラ陸上マラソン世界選手権では優勝。初めて世界一の栄冠を手にししました。2020年2月、自身の世界記録を更新。

上記の内容はNHK for School「アニメ×パラ第10弾 視覚障害者マラソン フォーカス! パラスポーツ 挑戦をやめられない~視覚障害者マラソン 道下美里選手~」を基にしています。検索すると3分弱の動画を見ることができます。

友だちと仲良くする、そして信頼する。そうしたチームの一員として信頼し合える相互の人間関係を築くことのよさを教えてもらえる話でもあります。

和顔愛語で新しい年をよい年に

いつもやわらかい笑顔で、心のこもった穏やかな言葉づかいをする。「笑う門には福きたる」とも。この1年間を振り返り、新しい年を^{わげんあいご}和顔愛語でお迎えください。